協同

小山展弘後援会報
令和３年
５月21日号

＜編集・発行＞
小山展弘後援会
〒438-0078
磐田市中泉 656-1
TEL ; 0538-39-1234
FAX ; 0538-39-1235

～ブレずにまっすぐ！～

前衆議院議員

小山のぶひろ

氏に訊く

川勝平太知事を推す！「東京時代」から「静岡時代」へ

明治維新は、政治・経済・社会・文化など、あらゆる面で大きな変化をもたらし、「富国強兵」によって日本は列強の一員となりました。しかし、明治維新には、数多くのテロや暗殺、会津藩への仕打ちなど負の部分もありました。また、明治の近代化は産業面が主で、その産業化も都市部に限られ、農村部には耐久消費財や農業機械等の工業製品市場が浸透せず、政治体制や社会制度の法整備の遅れも含め、明治時代の近代化は十分ではなかったとの指摘もあります。明治時代に限らず、全てが光だけ」という時代はないのだと思います。

一方で、明治に否定された江戸時代は「暗黒」の側面ばかりではありません。江戸時代を開いたのは徳川家康公で、静岡県や愛知県など東海地方の人たちが原動力となりました。徳川家康公は、朝鮮から撤兵し、朝鮮通信使による外交を始め、戦による領地の拡大と恩賞を求める武士の仕組みを改め、現状維持を図る仕組みに転換しました。現代風に言えば成長国家から成熟国家に転換したといえるでしょうか。川勝平太知事の「文明の海洋史観」等の著書によれば、江戸時代は「身を修めて徳を積むことが権力の正当化の根本」とし、武力のみの統治ではなく、徳治主義・文治主義の要素を取り入れました。国内では「鉄砲を棄てた日本人」のとおり軍縮を進め、２６０年間の太平の世を築きました。経済面では、労働集約型で土地の生産性を高めることに注力し（勤勉革命）、土地の生産性は幕末に世界一の水準に達しました。資源が少ないため、リサイクルに工夫を凝らし、エコな循環型社会を築きました。武士は、土地を所有せず、教養と文化と道徳を学び、経営と統治の資質を磨きました。このような文化的背景から、維新の志士や渋沢栄一などの明治の経営者が輩出されました。また、文化を大切にする姿勢から、元禄文化や化政文化が花開き、世界中に影響を与えました。「江戸時代の日本人」こそ、訪れた欧米人から絶賛されたのです。

川勝平太知事は「明治維新には功もあったが罪もあった。江戸時代を『正』、明治時代を『反』とし、弁証法のごとく、『合』となるべき現代を創っていこう」と仰いましたが、私もまったく同感です。特定の時代を美化しすぎることなく、その時代の外部環境も考慮に入れながらも、それぞれの時代の特徴を、現代の課題を解決するためのヒントとすべきであろうと思います。江戸時代と明治時代を調和し、戦前と戦後を調和し、地球の直面する環境問題や核軍縮、経済格差などの諸課題を解決する、新たな文明を創ることが、今を生きる我々の役割であるように思います。

川勝知事は、それぞれの地域にはそれぞれの「場の力」があると言っています。静岡県の郷土史を紐解くことにより、この地域の果たした「場の役割」や「場の力」を認識し、それを現代に活かすヒントを得られるものと思います。静岡県は、多くの旅人達がこの地を訪れ、通過し、文物を残しているように、東西交通の要衝であり、それぞれの政治勢力が衝突する場でもありました。京都が古代よりアジア文明を全て吸収しつくした地であり、東京が近代西洋を全て吸収し尽くした地であるとすれば、その両者を融合し、新たな日本文明を築いていく「場の役割」「場の力」を持っているのは静岡県ではないかとさえ思われます。東西文明を調和し、国内の貧困を解消し、学問・芸術・文化を興し、人格を高め、争わず、品格のある「富国有徳の世界」「静岡時代」を、この静岡県から創っていこうではありませんか。

前衆議院議員　小山展弘